特別支援学校における
アレルギー疾患に関する調査研究

出典　　発達障害研究(0387-9682)34巻4号 Page388-396(2012.11)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2013135252)

著者　　坂本裕　他

調査地域　　日本全国

調査時期　　2009年

調査対象　　幼稚部　(3～6歳)
小学部　(6～12歳)
中学部　(12～15歳)
高等部　(15～18歳)

有効回答数　　49917人
有効回答率　　44.2%

診断方法　　教員の申告

有症率　　食物アレルギー：4.4%
アナフィラキシー：0.26%

男女別有症率　　食物アレルギー　　男：4.4%、女：4.5%
幼稚部　全体：5.7%、　男：6.4%、女：4.7%
小学部　全体：5.1%、　男：5.1%、女：4.9%
中学部　全体：4.3%、　男：5.1%、女：4.3%
高等部　全体：4.0%、　男：3.8%、女：4.3%
アナフィラキシー　　男：0.27%、女：0.23%
幼稚部　全体：0.68%、　男：0.71%、女：0.63%
小学部　全体：0.29%、　男：0.31%、女：0.25%
中学部　全体：0.32%、　男：0.33%、女：0.31%
高等部　全体：0.19%、　男：0.20%、女：0.17%

調査概要　　全国の特別支援学校の幼児児童生徒を対象としたアレルギー疾患の有症率を調査した論文。特別支援学校の生徒は小・中・高等学校・中等教区学校の生徒と比べ有症率は1.1～1.9倍であったが、男女比、自然歴はほぼ同様であった。